



内容

第8回全国医科大学国際交流センター 連絡協議会・講演会 終了

1、幹事挨拶

衛藤義勝

山城雄一郎

2、第7回協議会 について

第7回世話人

屋代隆

3、第8回協議会 について

第8回世話人

茅野秀一

4、第8回協議会 プログラム

5、参加者名簿

6、アンケート結果

1.幹事挨拶

第8回全国医科大学国際交流センター連絡協議会開催に寄せて
代表幹事 衛藤 義勝

全国医科大学国際交流センター連絡協議会を各大学持ち回りで毎年開催して、すでに今回は8年目であります。今まで第1回慈恵医大で開催以降、順天堂大学、日本医大、東京女子医科大学、昭和大学、東邦大学、自治医大、埼玉医科大学の順で開催し、毎年参加大学が増えており、すでに40校以上の医科大学が参加し、又8年前は国際交流センターを有する大学は非常に少なく、今年度は40校近くに増えて、又外国からの受け入れ留学生も着実に伸びており、外国の提携校も各大学かなり積極的に活動され、増加の一途を辿っております。国際交流活動は言うまでもなく、国際的な医師の人材養成をめざしており、現在では国際的活動無くしては、我が国の存在が危ぶまれる時代になっております。特に最近アジア諸国の躍進が経済のみならず、医学の分野でも我が国を追い越す勢いがあります。

我が国が医療、医学の分野で国際的リーダーシップを持つためには医学生からの国際交流活動が重要であります。全国医科大学国際交流センター連絡協議会の活動は、着実に、全国規模の組織となり、これからの我が国の医科大学の国際交流に重要な役割を果たすものと信じております。最後に第8回は埼玉医科大学の担当で素晴らしいプログラムで開催され、別所正美学長、藤巻高光センター長、担当の茅野教授、チャド・ゴットフリー教授をはじめ埼玉医大の関係の先生方に感謝申し上げます。

第8回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会に参加して

順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座
山城雄一郎

平成29年9月1日(金)の午後1時30分から埼玉医科大学かわごえクリニック6階講堂で全国から多数の参加者が集い、開始された。

先ず最初に、当会を1年前から周到にご準備された埼玉医科大学国際交流センターの藤巻高光先生、茅野秀一先生そして関係者の皆様、更に当会の開催にご理解と強力なご支援を下された別所正美学長へ、当会の世話人幹事の一人として心より厚く御礼申し上げます。当会の開催に当っては、学内の関係者そして外部の当会に関与して来た方々と、プログラムとその内容に関して度々検討会を行った成果が表れ、素晴らしい会合となり、参加者はそれを実感したと拝察出来ました。小生は世話人の一人としての感想を求められているので、下記に拙論として記しました。

1. 自治医科大学 屋代隆先生は、昨年当会(第7回)の当番校幹事長としてお世話下さった先生で、その際の討論議題となった「海外の医学部に在籍している日本人が、日本国内で臨床実習を希望する場合の問題点」を、ご自分でアンケート調査をなさってその結果を報告された。その詳細な結果は、当会抄録集等に掲載されているので、小生の感想をコメントさせて頂く。

先ず、小生の所属する順天堂大学医学部は、海外から国籍を問わずWHO認定の海外の医学部の学生&卒業生を当大学附属病院(合計6病院、約3,400床)で受け入れている。過去10年間の受け入れ総数は、海外から1,000名余、昨年は261名であった。現、小川秀興理事長が主唱する、学閥、男女そして国籍に差別の無い“三無主義”が学内で良く理解された結果と言える。当院は1年後に創立180周年を迎える日本最古の歴史を誇り、我が国に他に先駆けて西洋医学を取り入れている。例えば野口英世や済生学舎(日本医大、東京医大など)の創設者:長谷川泰氏、東京女子医大の創設者:吉岡彌生氏等も学んだ事から、順天堂の男女、出自の差なしの歴史は古い。しかし日本に学閥・国籍を問わずという考えは普及していない。未だ半数以上の国内医学部、医科大学系病院で、外国籍だけでなく日本国籍であっても海外医学部卒或いは卒予定の人の実習生としての受け入れを躊躇しているという調査結果に驚きを禁じ得ない。その理由の一つに彼等の診療技能に不安がある事を挙げているが、それは世界の医学教育に関する情報不足に一因があると思われる。古いヨーロッパ諸国を除き、世界の医学教育は単純に大別すると英国方式(英国を旧宗主国とする多くのアフリカ、中近東そして香港にまで至るアジア諸国)と米国式(アジアでは韓国、台湾、フィリピン等)があり、例えば英国式の医学教育を受けたアフリカの学生の診療技能は英国の医学生と比して何ら遜色無い。小生の経験から、国際的にも良く知られた問題のある日本の医学教育制度下で学んだ日本の医学生より彼らの診療技能のレベルは高い。世界的には研究費と研究施設が貧弱な国が少なくなく、その国々の研究レベルは高くないが、この事から診療技能も低いのではと推察するのは、世界を知らな過ぎる。その根底にあるのは、国際性の欠如である。現在、注目されている一つに、ポーランド、ハンガリー、チェコ等の医学部で学んでいる日本国籍の医学生(含卒業生)が日本の医師国家試験受験資格を取る為の、日本の教育病院での受け入れには問題があると云われている。“他の国の国家予算で勉強して日本に帰って来るのは良くない”とか“イージー?な海外医学部に入学して日本に帰国して医者をやろうとするのはけしからん”等の意見がアンケート調査の返信の紹介としてあった。医学教育に関係している方からの返信であろうから、これを聞いて唖然とした。医師となれば世界何処の国、地域に行っても、病める人々の苦しみ、悩みに少しでも貢献する事が医師としての大事な使命の一つではないのか…。EUライセンスは現時点(2017年9月)で英国も含め27カ国から成っていて、ポーランド、ハンガリー、チェコもEU諸国の加盟国である。EU諸国内は加盟国の医師免許を含む種々の国家資格が原則として使用出来る。従って一部の人達が問題にしている上記国の医学部卒業者(医師免許取得者)は、EU内で一定のトレーニングを受ければ、そこで病院勤務が可能となる。一方、日本の医師免許は日本だけでしか使えず、彼等外国卒の方が“国際性”の点でも優れているのである。日本の医師免許取得の機会を彼等に積極的に提供し、更に国際性豊かな医師養成に努めるべきと、小生は考える。順天堂大学は正にその路線にある。大学の国際ランキングの発表が昨今、新聞紙上を賑わすが、外国人留学生、外国人教員の数も評価対象にあり、日本の大学の国際性の欠如が、この面での評価でも低く、総じて下落傾向にある。

2. ミニシンポジウム「安全管理」

一昔前までは想像もしなかった事であるが、今や世界何処へ行ってもテロを含む意図的人災の危険から逃れる事は出来ない。かつては、学生が海外渡航してもその目的に関係無く、それは“自己責任”とする考えが無きにしも非ずであった。しかし現在は当然、特に学生を実習目的で海外派遣する場合は、派遣した大学側が大きな責務を負う事になる。不幸にして現地で学生が事件に遭遇した場合の事を想定して、年に最低1回は学内でシュミレーションを行い、その際学内の誰が総責任者となり、その対応メンバー(教員、事務方、その他)、更にはこのような事件時に対応支援する保険会社や外務省等々との連絡、支援要請を誰がどの様に行なうか、常に即時に対応出来る事が重要である。当然であるが、海外との時差もあり、24時間体制で当らなくてはならない等問題が多い。これらの問題点の詳細な記述は他の機会に譲る。

2、第7回協議会について

第7回世話人 屋代 隆

前回の連絡協議会・講演会の世話人の立場から

屋代 隆(自治医科大学医学部)

昨年、第7回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会を自治医科大学で開催させていただきました。遠路にもかかわらず多くの皆様方にお集まりいただき、ありがとうございました。

さて、この会の開催準備中に和歌山医科大学国際交流センター長であられた前田正信先生から、昨今国内の医科大学へ問い合わせが増加している「日本人で海外の医学部に在籍している学生が、日本の医科大学・医学部で臨床実習させて欲しいという依頼」について、問題提起をしたいとの連絡がありました。周知のとおり、毎年数十名の日本人がハンガリーやチェコの医科大学へ入学し、そして卒業後日本で医師国家試験を受験し医師資格を取得しようとする学生が目立つようになっていくことに起因しています。医学教育のグローバル化が求められている視点から積極的に受け入れるべき、国内の医学部は国内の学生のためにあるので問題は多い、交換留学生を受け入れているのであるから国外の日本人を受け入れるのは当然である、等と多様なご意見があります。昨年の大会では是非ともこの連絡協議会で検討すべきではという前田先生のご提案があり、大会後にアンケート調査を行うことになりました。海外派遣学生に対するリスク管理、受け入れ学生に対する損害保険等の「危機管理」「安全管理」に関する課題と同様、私たちが討議すべき喫緊の問題であると思われます。

第8回大会は上記のアンケート調査結果を踏まえて、この課題に対して積極的な討議がなされることを強く期待しています。



3、第8回協議会について

第8回世話人茅野 秀一

全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会をおえて

第8回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会準備委員 茅野秀一（埼玉医科大学）

都心から電車でおよそ一時間の川越の街で第8回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会を開催することになり、果たしてどれだけの皆様にご参集頂けるのか、はては天変地異が起きたらどうしようかと等と、当番校幹事としては多いに心配いたしました。100名を越えるご参加をいただき、懇親会にも80名近い方々が残ってくださいました。あらためて深く御礼申し上げます。

今年の開催は例年と異なる点がいくつかありました。一つは開催時期です。実は埼玉医大の国際交流センターでは7月に交換留学のピークをむかえ、海外からの医学生10名と本学の派遣学生20名の対応に追われるため、皆さまに失礼のないように9月はじめの開催とさせていただきました。また、協議会の発表形式もミニシンポジウムと懇親会を兼ねたポスターセッションからなる新企画としました。医科大学における国際交流を展開する際の課題は多様ですが「安全管理」や「派遣学生の事前学修」は普遍性の高い課題と思われ、この2テーマを中心に「医科大学における国際交流の現状と課題」について議論を深めたいと考えたからでした。そのため、予め抄録やポスターをご準備いただくなど演者の皆さまには様々なご負担をお願いすることになりました。

当日は自治医大屋代先生に「海外医学部に在籍する日本人学生の我が国における臨床実習をめぐる問題点」についてお話しいただいたのを皮切りに、終始、活発な討論が繰り広げられました。懇親会をかねたポスターセッションでも学生発表を含め合計8演題が集まり、活発かつ和やかで大変良い雰囲気の中討論が進みました。また、本会の英語表記案 Japanese Medical University International Centers' Assembly略してJ-MICAが埼玉医大国際交流センター長藤巻教授から披露され、喝采をあげました。

今年の連絡協議会・講演会が無事に終了してみると、あらためて国際交流事業には施設間の連携が重要なのだと気づかされます。次回第9回の開催が独協医大に決まり、今回の当番校として安堵すると同時に皆さまとお会いできるのを今からとても楽しみにしています。



第8回 全国医科大学国際交流センター 連絡協議会・講演会

日時：平成29年9月1日(金) 13時開場
会場：埼玉医科大学かわごえクリニック6階
埼玉県川越市藤田本町21-7
(東武東上線、JR埼京線・川越線 川越駅西口より徒歩5分)



- ◆13:40～14:20 特別講演
「海外の医学部に在籍している日本人学生が、日本国内で臨床実習を希望する場合の課題点 - アンケート調査の報告 -」
自治医科大学 歴代隆先生
- ◆14:20～15:10 ミニシンポジウム1
- ◆15:30～16:00 当番校講演
「The Saitama Medical University Student Exchange Program:
Supporting the Needs of Inbound and Outbound Students」
埼玉医科大学 チャド・ゴッドフリー先生
- ◆16:00～16:50 ミニシンポジウム2
- ◆17:30～19:00 ポスターセッション&懇親会

5月より
演題募集開始



お問い合わせ:

埼玉医科大学
国際交流センター
049-276-2029
koryubu@saitama-med.ac.jp

全国医科大学国際交流センター連絡協議会世話人幹事
電通戦野(東京慈恵会医科大学名誉教授)
山城雄一郎(順天堂大学グローバルイノベーション研究講座教授)

当番校幹事
埼玉医科大学国際交流センター
藤巻高亮(センター長)
茅野貴一、チャド・ゴッドフリー



第8回 全国医科大学国際交流センター 連絡協議会・講演会

【日時】平成29年9月1日(金)
【会場】埼玉医科大学かわごえクリニック6階

第8回全国医科大学国際交流
センター連絡協議会・講演会
会場風景↓



4、第8回協議会プログラム

第8回全国医科大学国際交流センター連絡協議会・講演会

平成 29 年 9 月 1 日(金) 埼玉医科大学かわごえクリニック

開 場 13:00

第1部(口演)

(会場:6階講堂)

1. 開会のあいさつ 13:30-13:45

藤巻高光(当番校幹事、埼玉医科大学国際交流センター長) 別所正美(埼玉医科大学学長)

衛藤義勝(世話人代表幹事、東京慈恵会医科大学) 山城雄一郎(世話人幹事、順天堂大学)

2. 講演1 13:45-14:25

2-1)「海外の医学部に在籍している日本人学生が、日本国内で臨床実習を希望する場合の問題点—アンケート調査の報告—」

自治医科大学医学部(国際交流委員会) 屋代隆

3. ミニシンポジウム1【安全管理】14:25-15:20

3-1)「群馬大学医学部医学科における学生国際交流の取り組み」

群馬大学医学部医学科 石崎泰樹

3-2)「海外臨床研修における血液・体液暴露事故対策」

日本医科大学医学部国際交流センター 塚田(哲翁)弥生、他

3-3)「留学予定学生のメンタルケアについて」

名古屋大学医学部国際連携室 長谷川仁紀、他

3-4)「医科大学国際交流における危機管理について」

埼玉医科大学国際交流センター 茅野秀一

3-5) 討論1

休 憩 15:20-15:40

4. 講演2 15:40-16:10

4-1)「The Saitama Medical University Student Exchange Program: Supporting the Needs of Inbound and Outbound Students」

埼玉医科大学国際交流センター チャド・ゴッドフリー

5. ミニシンポジウム2【派遣学生事前教育】 16:10-16:50

5-1)「海外派遣学生の事前学習の支援—医学英語を中心とした語学学習」
東京女子医科大学医学部 鈴木光代、他

5-2)「海外選択実習の事前準備—外国人模擬患者による英語の医療面接」
昭和大学国際交流センター 橋本みゆき、他

5-3) 討論2

6. 第一部終了の辞 16:50-17:00

茅野秀一(埼玉医科大学国際交流センター)

第2部(ポスター・懇親会)

(会場:4階会場)

7. 第2部開会のあいさつ 17:30

チャド・ゴッドフリー(埼玉医科大学国際交流センター)

8. ポスター発表 17:40-19:00 ポスター発表

P1「Student Exchange Program at Charite-University Medicine Berlin」

埼玉医科大学 中村翔、他

P2「13 年間のアメリカ・イギリスとの医学生の臨床実習交流について」

京都府立医科大学 水野敏樹、他

P3「本学の学生海外研修と教員の研究活動」

P4「自治医科大学医学部における国際交流活動の実態」

獨協医科大学 千種雄一

自治医科大学 学事課 国際交流推進室、国際交流委員会 江角真理子、他

P5「名古屋大学医学部におけるジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)の現状」

名古屋大学医学部国際連携室 炭竈誠二、他

P6「Medical Classes in English in Nagoya University Medical School.」

名古屋大学医学部国際連携室 Itzel Bustos、他

P7「EHSP ロサンゼルスプログラムの現状と課題」

P8「EHSP サンフランシスコプログラムの現状と課題」

埼玉医科大学 遠藤博文、他 埼玉医科大学 米山史華、他

9. 閉会のあいさつ 19:00

藤巻高光(埼玉医科大学国際交流センター長)

5、第7回・8回協議会 参加者名簿

氏名	大学
衛藤 義勝	東京慈恵会医科大学名誉教授
山城 雄一郎	順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座教授
渡辺 秀人	愛知医科大学国際交流センター長
河野 公一	大阪医科大学中山国際医学医療交流センター
角江 司	大阪医科大学中山国際医学医療交流センター
馬場 幸子	大阪大学医学部医学科国際交流センター副センター長
上田善道	金沢医科大学病理学Ⅱ、国際交流センター長
徳田 雅明	香川大学医学部形態・機能医学講座 細胞情報生理学
友田 幸一	関西医科大学耳鼻咽喉科
鈴鹿 有子	関西医科大学国際交流センター
上田 善道	金沢医科大学病理学Ⅱ、国際交流センター長
澁谷 良穂	金沢医科大学一般教育機構長英語、国際交流センター副センター長
前垣内紀美子	金沢医科大学国際交流センター事務課
石崎 泰樹	群馬大学 大学院医学研究科教授
柳川 右千夫	群馬大学 医学部医学科
小林道也	高知大学医学部医療管理学講座教授
別所正美	埼玉医科大学学長
藤巻高光	埼玉医科大学国際交流センター長
茅野 秀一	埼玉医科大学病理学准教授、国際交流センター兼担
チャド・ゴッドフリー	埼玉医科大学教養教育部門講師(国際交流センター兼担)
小田 康友	佐賀大学医学部
屋代 隆	自治医科大学医学部解剖学講座組織学部門教授
江角 真理子	自治医科大学 学事課 国際交流推進室
勝部 恵	自治医科大学 学事課 国際交流推進室
野尻 英一	自治医科大学 学事課 国際交流推進室
後閑 武彦	昭和大学放射線科教授
橋本 みゆき	昭和大学国際交流センター准教授
本間 生夫	昭和大学医学部第二生理学教室
松本 直樹	聖マリアンナ医科大学卒前医学教育国際交流委員会委員長
田嶋 宏子	聖マリアンナ医科大学医学教育文化部門
松澤 瞳	聖マリアンナ医科大学教育学教育課
松本 直樹	聖マリアンナ医科大学薬理学
田中 誠	筑波大学大学院人間総合科学研究科
森尾 郁子	東京医科歯科大学国際交流センター
ジェレミー・ウィリアムス	東京医科大学国際医学情報学分野主任教授
J.Patrick. Barron	東京医科大学国際医学情報学講座
永田彩	東京医科大学医学教育推進センター
南沢 享	東京慈恵会医科大学細胞生物学
福田 国彦	東京慈恵会医科大学放射線医学講座
芦田 ルリ	東京慈恵会医科大学国際交流センター
杉下智彦	東京女子医科大学国際交流委員会室室長
鈴木 光代	東京女子医科大学国際交流委員会室准教授

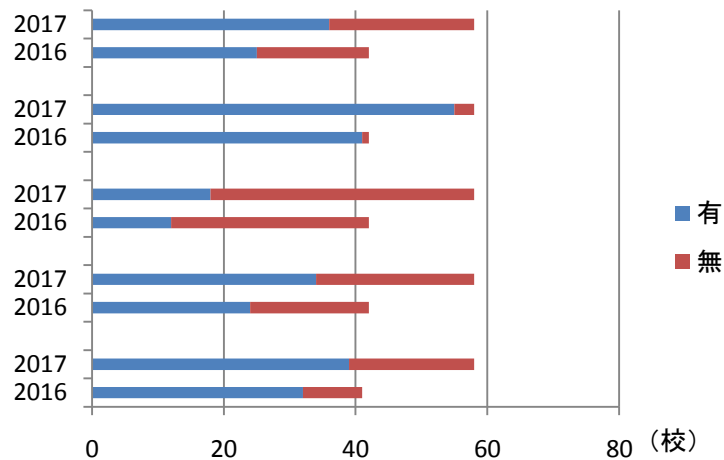
遠藤美香	東京女子医科大学医学部英語教室
足立綾	東京女子医科大学医学部外国語文化教室
大黒 史子	東京女子医科大学国際交流委員会
丸山 稔之	東京大学医学部
館田 一	東邦大学医学部国際交流センター長
川野千佳	東邦大学医学部国際交流センター
松井 秀親	東邦大学医学部国際交流センター
千種 雄一	獨協医科大学医学部教授、海外研修委員会委員長
ヴォルフガング・R・アーデ	獨協医科大学医学部海外研修委員会日獨連携推進室 副室長
ウィリアム・G・ハセット	獨協医科大学医学部海外研修委員会基本医学語学・人文教育部門講師
安藤 千春	獨協医科大学国際交流センター
クライド・F. 伊藤	獨協医科大学 国際交流支援室
能登 慶和	獨協医科大学 国際交流支援室
小林 繁晴	獨協医科大学 国際交流支援室
菅沼 裕子	獨協医科大学 国際交流支援室
粕谷 英樹	名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室
ブランコ・アレクシッチ	名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室
炭竈誠二	名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室
イツツェル・ブストス・ビジャロボス	名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室
長谷川仁紀	名古屋大学大学院医学系研究科国際連携室
新田 隆	日本医科大学国際交流センター長
萩野 良隆	日本医科大学国際交流センター
王 姝	日本医科大学国際交流センター
塚田弥生	日本医科大学国際交流センター
藤原 哲也	福井大学医学部国際社会医学講座教授
関根 英治	福島県立医科大学 医学部教授、国際交流担当
谷口 孝喜	藤田保健衛生大学医学部国際交流推進センター長
神谷 祐奈	藤田保健衛生大学医学部国際交流推進センター
吉岡 充弘	北海道大学 医学部薬理学講座
丸山 治彦	宮崎大学医学部感染症学講座教授、国際交流室長
袖山 洋志	千葉大学医学部 国際戦略・広報担当
遠藤 久美子	千葉大学医学部 国際戦略・広報担当
吉田 貴彦	旭川医科大学社会医学講座
中田 光紀	産業医科大学 国際交流センター
幸田 友紀	奈良県立医科大学国際交流センター
宮下 和夫	順天堂大学国際交流センター
石川 侑世	順天堂大学国際交流センター
三枝 慶	順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス事務室教務課
助川 晃自	滋賀医科大学 国際交流支援室
平泉 由香	昭和大学国際交流センター

小川 良雄	昭和大学医学部長
三浦 健	昭和大学学事課国際交流係
水野 敏樹	京都府立医科大学 神経内科・国際学術交流センター
中尾 麻悠子	京都府立医科大学 研究支援課 国際学術交流センター
堀池 由紀美	京都府立医科大学 研究支援課 国際学術交流センター
後藤 あや	福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
鳥井 杏子	兵庫医科大学 国際交流センター

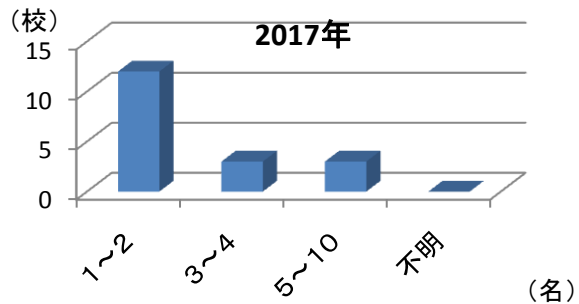
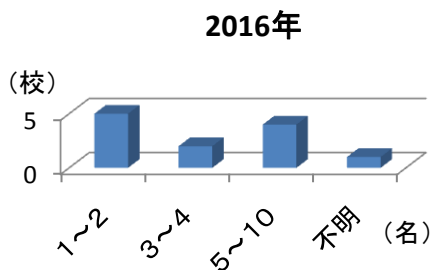
6、アンケート調査結果

(1) 国際交流センターに関するアンケート調査 (2017年7月実施)

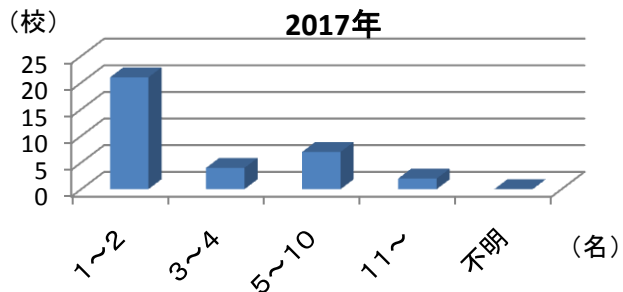
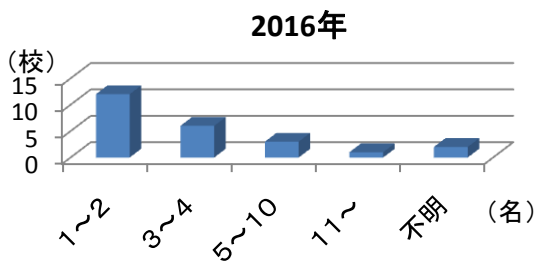
- 1: 国際医学交流センターはありますか？
(全学部)
- 2: 国際交流委員会がありますか？ (全学部)
- 3: 専任の教員はいますか？
- 4: 専任の事務員はいますか？
- 5: 年度予算はありますか？



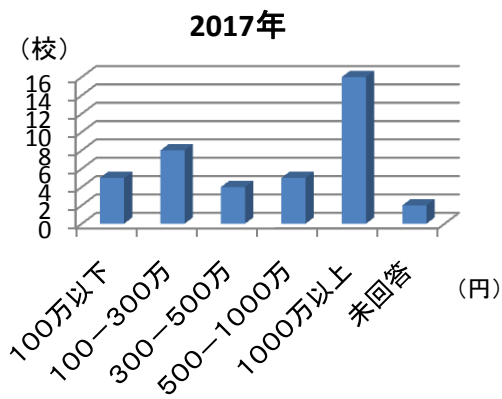
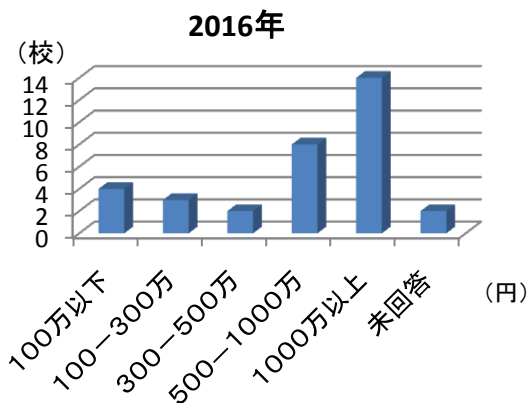
3': 3にて、いるとお答えの施設 専任の教員は何名ですか？



4': 4にて、いるとお答えの施設専任の事務員は何名ですか？



5': 5にて、あるとお答えの施設予算はどのくらいですか？



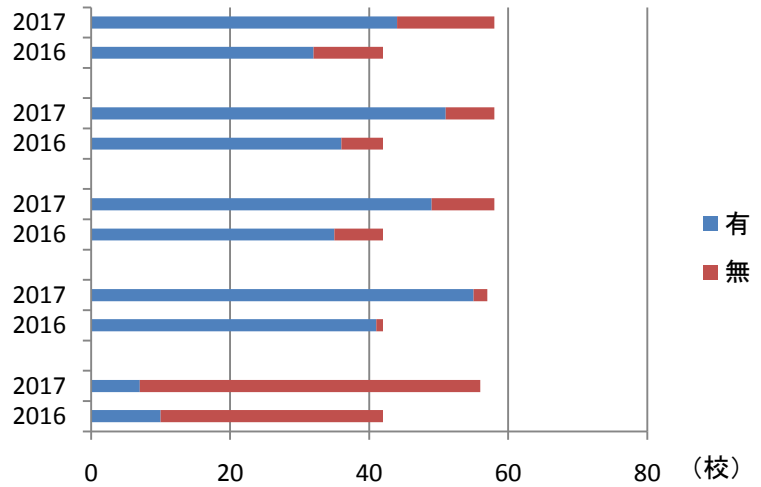
7:医学生の留学生は毎年きますか？

8:大学院生の留学生は毎年きますか？

9:留学生の宿泊施設はありますか？
(全学部)

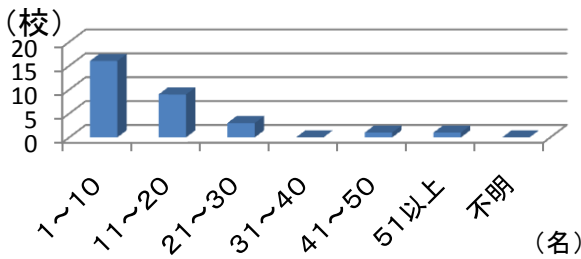
10:外国大学と連携していますか？

11:ハワイ大学での教育コースに
参加していますか？

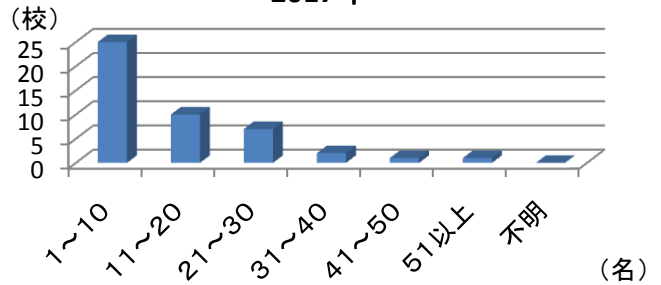


7':医学生の留学生は毎年何人きますか？

2016年

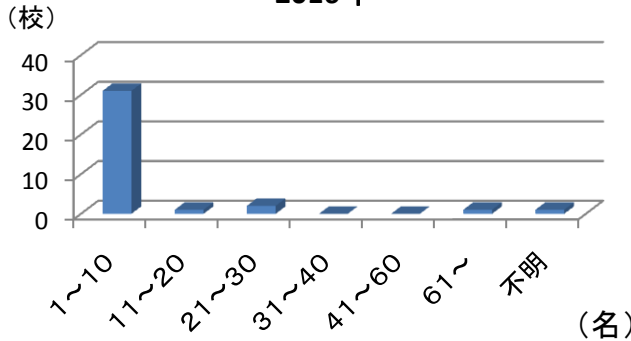


2017年

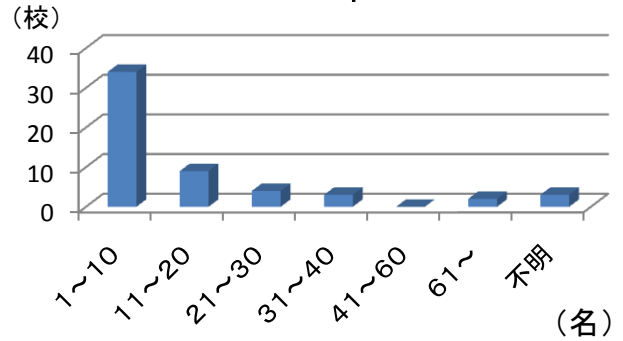


8':大学院生の留学生は毎年何人きますか？

2016年

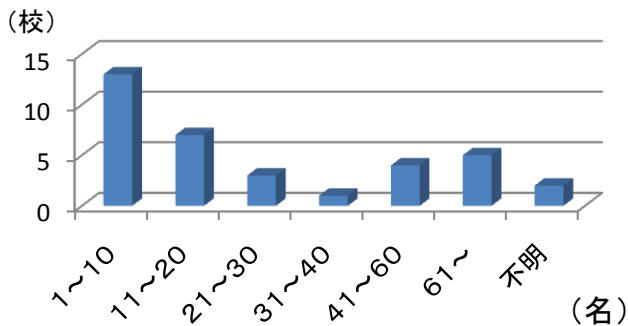


2017年

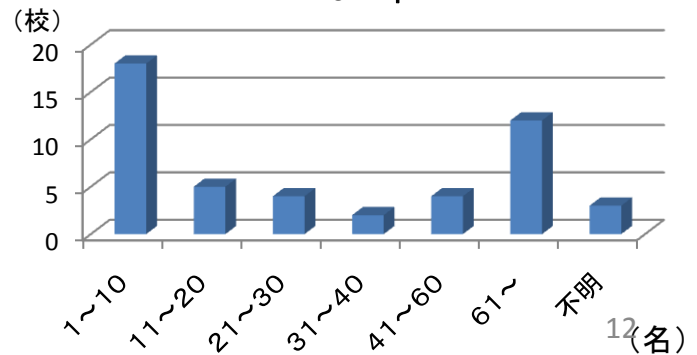


9':留学生の宿泊施設はどの位の規模ですか？(全学部)

2016年

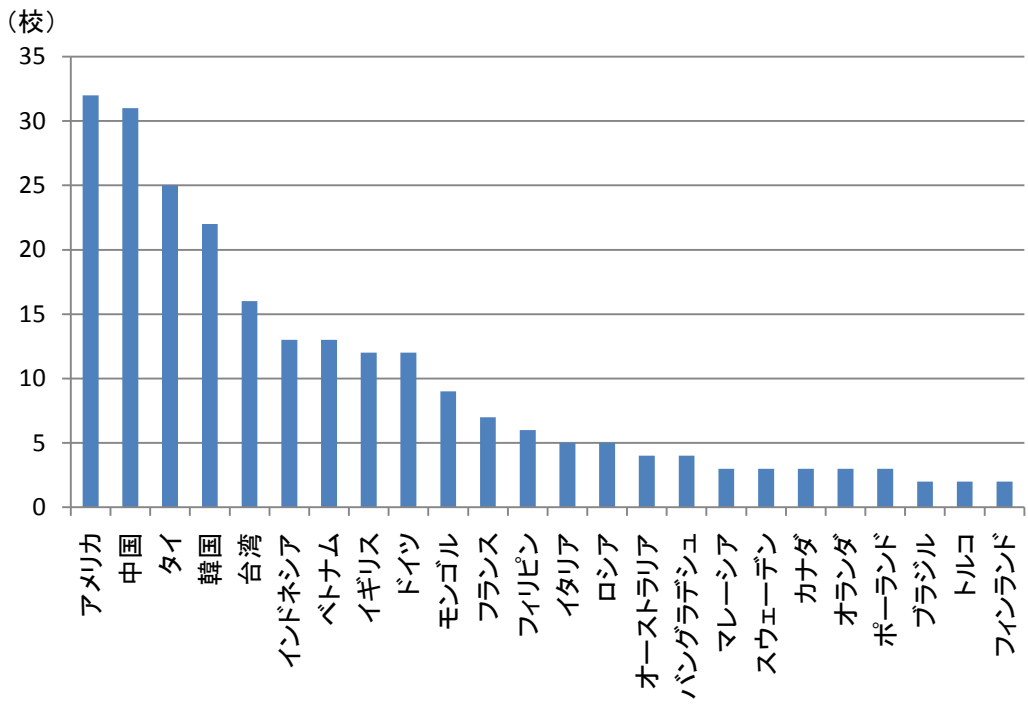


2017年

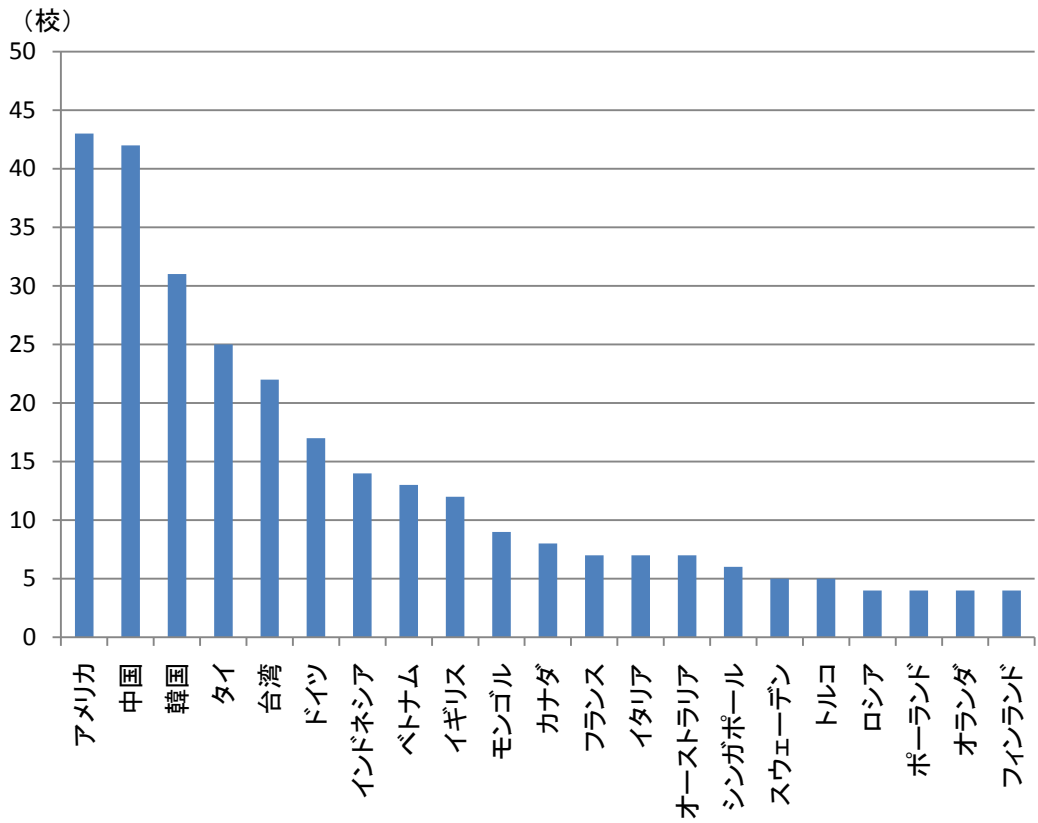


10: どちらの外国大学と連携していますか？

2016
年



2017
年



その他、マレーシア ブラジル インド オーストラリア チェコ フィリピン フィリピン バングラディッシュ デンマーク UAE
ネパール 香港 ミャンマー スイス カンボジア バーレーン 等

12: 現在、国際交流事業としてどのような取り組みを予定しているか。

・協定大学との交換留学(短期・長期)	20校
・留学生交流事業	19校
・海外協定校の拡充	14校
・国際シンポジウム、セミナー、学術集会の開催	12校
・研究者受入・派遣	11校
・医学生の臨床実習相互派遣(6年次の実習先として海外施設で行う事も推奨している。)	6校
・教職員受入・派遣	5校
・海外研修プログラムの実施	4校
・JICA /JST事業の展開	4校
・留学生への助成金の案内	4校
・スーパーグローバル大学創成支援事業(JSPS)	3校
・ダブルディグリープログラム(予定含む)	3校
・国際交流センターの設立	3校
・語学教育(TOFEL、ITPなど)	2校
・共同研究	2校
・さくらサイエンスプログラム	2校
・学生、外国人研究者受入体制の整備、補助事業	2校
・ジョイントディグリープログラム(予定含む)	1校
・J-GRID事業	1校
・その他	



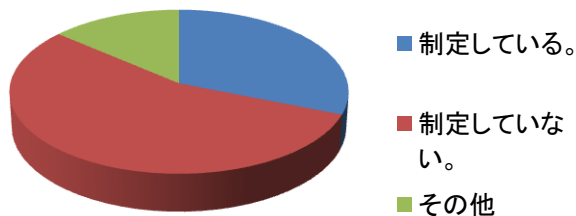
- 特別外国人大学院生の受入れ
- 海外医学医療支援
- 国際学術交流事業に対する助成
- 海外広報
- 姉妹校とのJoint Scientific Meeting
- 国連アカデミックインパクト(UNAI)への参加
- 海外ボランティア活動
- 外部団体とのイベント
- 危機管理体制の構築(渡航前オリエンテーション等)
- ネイティブのSPIによる医療面接授業
- 国際遠隔講義
- 海外プログラム自主研修
- マダガスカルの口唇口蓋裂医療協力団派遣等
- 授業の3分の1を英語で実施する
- 留学報告会

13: 今後の国際交流連絡会への希望。

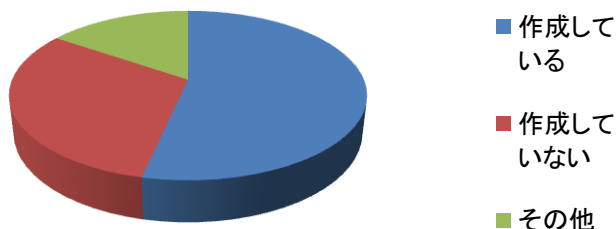
- 他大学との情報交換が可能なグループディスカッションを希望する。
- 各大学での国際交流・海外研修渡航における危機管理体制について情報共有できればよいと思う。(4校)
- (海外からの医学生および研究者の保険をどのようにしているかを知りたい。)
- 出来る限り参加させて頂きます。(2件)
- 各大学の国際交流センター間で情報交換が容易になるよう各大学の担当課の連絡網を作成して頂きたい。
- 留学生宿舍・短期研修プログラム等について、各校の取り組みを伺いたい。
- 本学の国際医学交流の現状としましては、学生向けの交換留学、春季語学研修などに加え、提携校との教員の交換留学(教員短期留学制度)も行っております。今後も様々な形で医学交流の国際化に貢献していきたいと考えております。
- 今回の会を本学が主催させて頂くにあたり、是非参加校からのフィードバックを頂ければと存じます。
- 電子媒体Eメールでの連絡、回答が出来るようフォーマットを送付して頂きたい。

(2)海外留学の危機管理についてのアンケート(2017年7月実施)

質問1 海外渡航危機管理に係る規定を制定していますか。



質問2 海外渡航危機管理マニュアル(ガイドライン)を作成していますか？



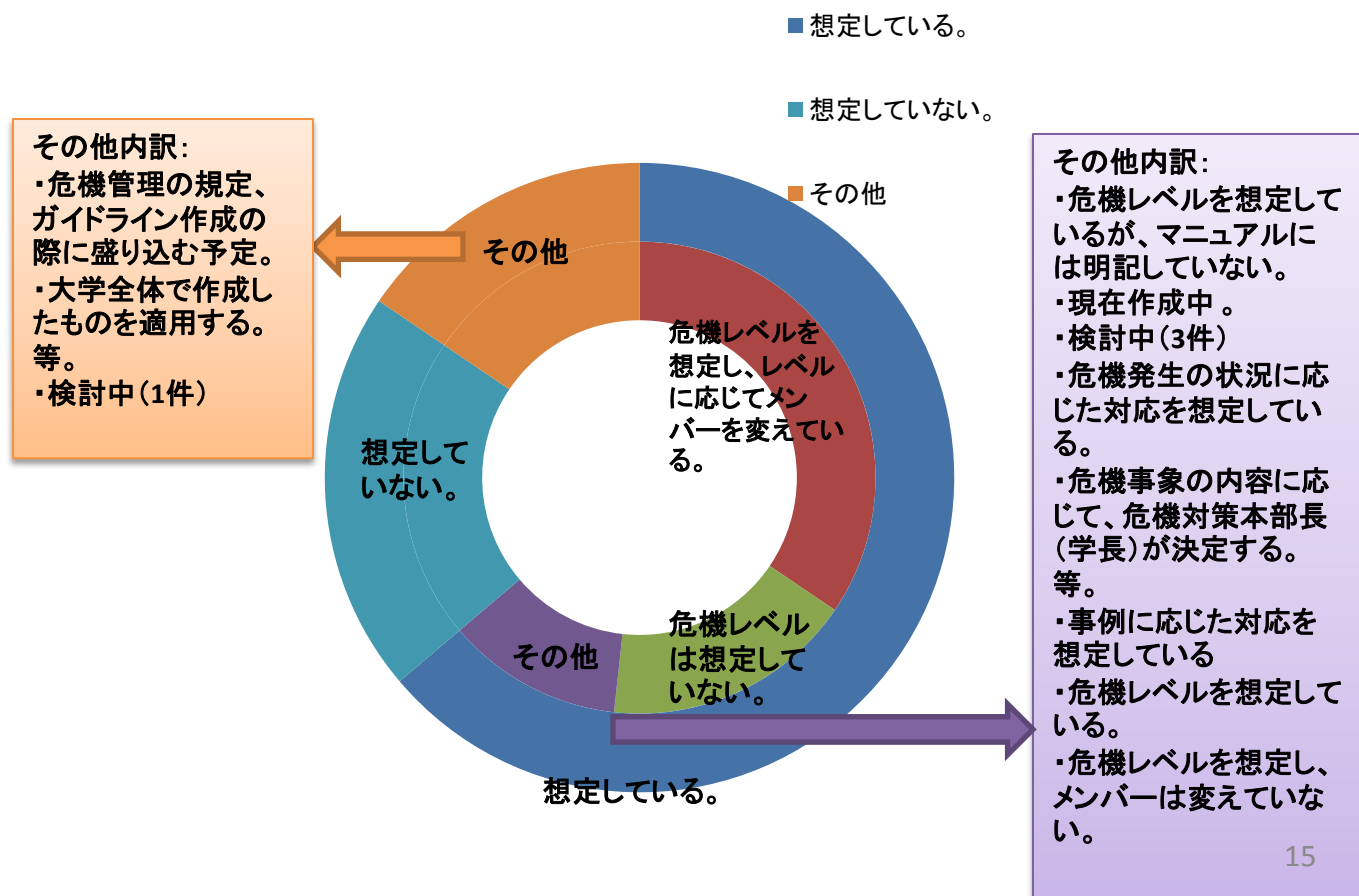
その他内訳:

- ・作成中。(2件)
- ・検討中。(4件)
- ・危機管理規定の定めはあるが、海外渡航には特化していない。
- ・危機管理規定を制定しており、海外渡航に関わる危機管理もこの中に含まれる。

その他内訳:

- ・作成中。(2件)・検討中(3件)
- ・外務省のマニュアルを利用している。
- ・先般作成して、現在ブラッシュアップを行っている。
- ・危機管理マニュアルを作成しており、教職員・学生の海外渡航に関わる危機管理も含んでいる。
- ・すでに大学全体として、作成しているが、更に詳細を検討中。
- ・大学全体で作成したものを基に、医学部で作成中。現在は、大学作成のマニュアルで対応。

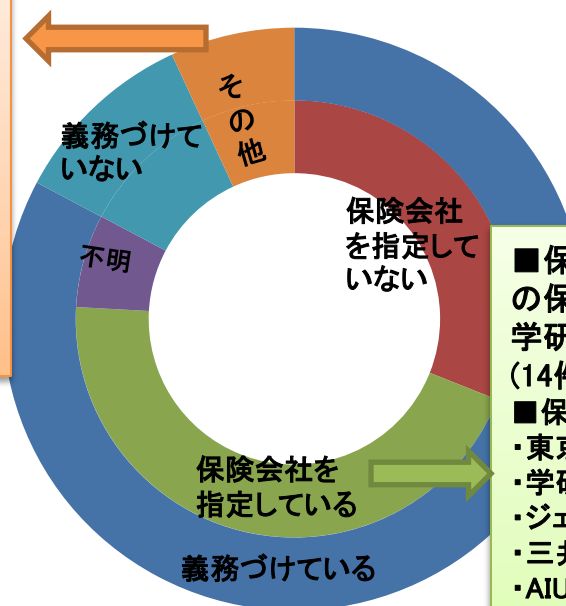
質問3 危機発生時に対策本部の設定を想定していますか。



質問4 学生に対し海外旅行保険の加入を義務付けていますか。

その他内訳:

- ・危機管理マニュアルが作成されるまで加入を強く推奨している。
- ・大学で一括加入している。
- ・大学の負担で加入させている。(三井住友海上火災保険)
- ・強く推奨している。
- ・正課による海外渡航の場合のみ加入。



■保険会社を指定している場合の保険の種類:

学研災付帯海外留学保険 (14件)

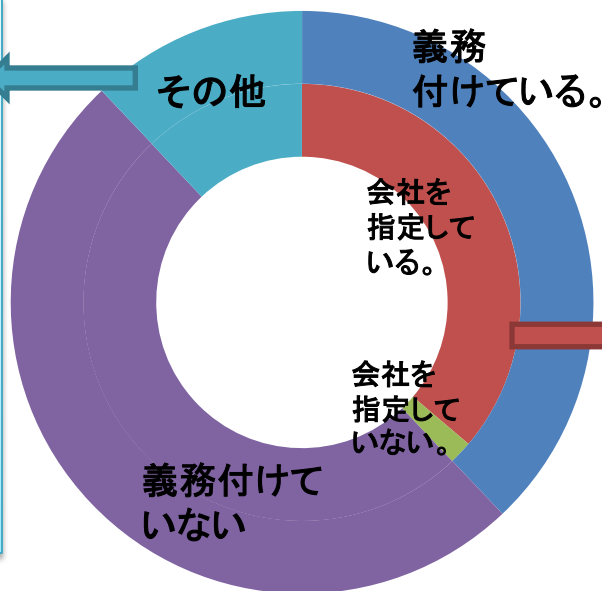
■保険会社内訳:

- ・東京海上日動(7件)
- ・学研災付帯(3件)
- ・ジェイアイ傷害(2件)
- ・三井海上 (1件)
- ・AIU(1件)
- ・公益財団法人 日本国際教育支援協会(1件)
- ・学研災付帯(4件)

質問5 学生に対し留学生危機管理サービス等への加入を義務付けていますか。

その他内訳:

- ・金銭的な面も考慮し、加入の義務付けの有無を検討している。
- ・外務省海外旅行の登録「たびレジ」の登録は義務付けている。
- ・推奨している。
- ・個人で行く場合は任意。
- ・おおよそ6ヶ月を上回る期間の受入れ学生のみ義務付け。
- ・JCSOS海外留学生安全対策協議会を推奨。
- ・強く推奨している。



会社名内訳:

- 日本エマージェンシーアシスタンス(株): 7件
- 日本アイラック: 5件
- 特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会 (JCSOS): 3件
- 外務省たびレジ: 1件

何かご意見がありましたら、ご記入下さい。

■上記に関しては今年度、制定するべく準備を進めています。他大学の取り組みについて、教えて頂ければ幸いです。

■本学では、学生向け留学準備事前セミナー等の際に、外務省作成の「海外安全虎の巻」を基に、安全管理講習の時間を設け、学生への注意喚起に努めております。等。